

子どもの体力づくり、スキーに親しむ街づくり

No. 254 2021年4月7日 日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221/fax 218-5124

3月18日の予算特別委員会第2部で、田中啓介議員がスキーを中心としたウィンタースポーツに接する機会づくりの整備を、村上仁議員が子どもの体力づくりの角度からラグビー振興を求めました。

ウィンタースポーツ親しめる身近な環境づくり 田中議員

■ リフト券助成の補助率引き上げは検討課題と提案

札幌市スポーツ推進計画で、ウィンタースポーツを行う上での、課題の一つを経済的に負担の大きさをあげています。スキーリフト料金助成について、2019年にそれまで小学3年生だけだったものを、小3から6年までに拡大しましたが、補助券利用率は2割程度と低迷しています。

田中議員は、この低迷の理由について説明を求めましたが、市は「今シーズンのスキーリフト料金助成の利用状況は約1万8000人」で、正確な数字はシーズン終了後と答弁。田中議員は、スキーリフトの親子券がほぼ5000円以上で、1000円のリフト券補助があっても親子2人で1万円近くの支出になることを紹介し、補助率のアップも検討課題だと提案しました。

■ スキーに親しむ機会をつくるため、公園のスキー山の活用で目標と活用促進策を

田中議員は、ウィンタースポーツに親しめる環境や仕組みを整えるには、実際に体験する機会を創出する必要があるとして、冬季における公園に作られるスキー山の活用をどれだけ増やすのか、整備目標をもつ必要があると提案。担当部長は、公園のスキー山整備状況は、高さが低くそり遊びを想定している築山も含め、



320か所で、もともと地形を利用したスキースロープが31か所あるので合計351か所と説明。公園の再整備は地域住民の意向を確認して進めているが、築山の具体的な整備目標は定めていないと答弁しました。田中議員は地域の声を聞きながらスキーに親しめる環境づくりを求めるとともに、学校の校庭にスキー山をつくらない学校や、スキー授業の回数減がみられ、スキー授業を減らさず、校庭にスキー山をつくり土日に地域開放するなど努力することを求めました。

ラグビー 体力づくりに有効 予算増をと村上議員

■ ラグビーの指導者不足は明らか、解消の手立てを

腰に紐をつけてタックルの代わりにその紐を取り合う、ラグビーは体の接触を伴わず、コロナ禍でも注目され、札幌市もラグビーの普及をめざしています。

子どもの基礎体力作り、協調性と自立性を養うことにつながるのとべた、村上議員は、市が取り組む「ラグビーを教える出前授業」について、小学校だけでも市内200校があることで、「指導者が不足するのではないか」「どう取り組むのか」と質問。市担当部長は、北海道ラグビーフットボール協会より派遣で実施しているが、「人材には限りがある」と認め、教員向けのラグビー指導研修を実施していると説明しました。

■ ラグビー、ラグビー関連予算、あまりに少なく増額を

幅広い年代にもラグビー普及について、涼しい札幌での合宿の誘致、生の試合を見る機会を札幌市がつくるなど努力を要請し、そのためにラグビー普及振興費が800万円、うちラグビー関連で120万円というのは極めて少ないと予算の拡充を強力に求めました。

